

ILCの建設スケジュールは？

ILC計画は、研究者による国際推進組織が推進しており、想定されるスケジュールは次のとおりです。

～2012年	国際共同設計チームによる各建設候補地の条件を考慮した工学設計
2013年～	ILC計画推進組織が日、米、EU政府等に設計案を提示 → 建設候補地の評価や政府間協議 → 建設地決定
2010年代後半～	建設
2020年代	稼働開始

ILCの費用は？

2007年8月、研究者グループから発表された概念設計書によると、建設費は当時のレートで約7,700億円*6。建設期間7年、実験期間20～30年、年間運転経費約180～320億円とされています。

*6 ILCが建設される国は、建設費の1/2程度の負担が想定されています。

ILCと東日本大震災からの復旧・復興

ILC計画は、2010年代後半の建設開始、稼働は2020年代半ばと言われ、東日本大震災からの復旧・復興の次の段階に位置するプロジェクトです。震災からの復興は、単に元に戻すということだけでなく、以前より安全・安心で、豊かな地域社会を作り上げていくものでなければなりません。

● 特区構想による震災からの真の復興

ILC計画は、世界最先端の科学技術研究施設であり、多くの研究成果を生み出すとともに、国内外の人や企業をひきつけ、雇用を創出し、私たち東北人の誇りとなり得る国際プロジェクトです。このことから岩手県では、ILC誘致を大震災からの復興のシンボルとして位置付け、国の復興構想会議に「TOHOKU国際科学技術研究特区」構想として提案しました。

これは、ILC計画のみならず、海洋研究・災害科学研究・医療研究・エネルギー資源研究施設が連携することにより、東北全域を世界最先端の科学技術研究の一大拠点とし、東北の産業を復興させ、東北で生まれた人々がこの地で働くことができるという、震災からの真の復興を目指す構想です。

● ILCの東北誘致に向けて

ILC計画の実現のため、岩手県では東北の産学官からなる東北加速器基礎科学研究会や東北大学、宮城県、仙台市などと連携した誘致活動に取り組んでいます。

ILC計画は現在、国が認めたプロジェクトになっていません。その実現のためには、まず、地元の理解と熱意が必要です。

21世紀の科学を切り拓き、世界へ貢献する新しい東北を創り、東日本大震災からの真の復興を成し遂げるILC計画への御理解と御支援をお願いします。

県では、ILC計画に関する地域の勉強会、講演会等に講師として職員を派遣いたします。無料
また、県職員以外の講師についてアドバイスいたします。次あて、お気軽にお問合せください。

連絡先

〒020-8570 盛岡市内丸10-1

岩手県政策地域部 政策推進室 ILC担当

電話 019-629-5217

E-mail AA0001@pref.iwate.jp